

令和4年度

事業説明資料

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名
01	06	01	03	164090	6次産業化推進事業費

単位: 千円

		前年度 決算額	当該年度 決算額	次年度 現計予算額	決算額 前年比
事業費		1,302	1,361		59
財源内訳	国費	0	0		0
	県費	0	0		0
	地方債	0	0		0
	その他	0	0		0
	一般財源	1,302	1,361		59

特定財源の内訳

--	--	--	--	--	--

事業期間	○	単年度繰返		期間限定	～
------	---	-------	--	------	---

部重点施策における目標

地域づくりへの参加を促進する

事業開始の背景・経緯

・平成26年6月に閣議決定された日本再興戦略（改訂2014）においては、6次産業の市場規模を現状の1兆円から2020年までに10兆円にするとの目標を掲げている。市としても、地域活性化を図るため、農業・農村の6次産業化を総合的に支援する必要がある。

事業概要

○6次産業化セミナー・個別相談会の開催 330千円  
6次産業化実践者及び志向者を対象としたセミナー・個別相談会の開催  
○農商工連携推進 1,031千円  
新たな加工品開発等にかかる農商工連携事業補助金の交付

担当部署	13100000 農林部 農政	担当課長	菊池 正彦
------	-----------------	------	-------

意見・要望等の状況

受講者からは繰り返し学ばないと実践につながっていかないなどの意見がある。また、個別課題に関して専門家からのご意見を伺う機会が必要なため個別相談会を継続してほしいという意見がある。

事業手法の詳細 1

6次産業化推進事業 R4 1,361千円

- 6次産業化セミナー・個別相談会の開催 330千円  
6次産業化の取り組みの段階に応じた支援を行うため、生産・商品開発・加工から販路開拓・経営までのテーマ別にセミナーを3回開催する。  
(テーマ例：設計・デザイン、ブランディング、販路開拓)  
また、各段階における事業者の課題も多様化しており、個別具体的な課題解決を支援するため、各専門家による個別相談を実施する。  
①対象  
6次産業化に興味のある農業者、6次産業化に係るセミナー過去の受講者、農商工連携事業補助金活用者等の6次産業化実践者  
②予算内訳  
専門家謝金(旅費相当含み) 330千円  
セミナー講師謝金及び旅費相当含み 100,000円×1回(3時間) = 100,000円(東京)  
60,000円×2回(2時間) = 120,000円(県内)  
個別相談会謝金 10,000円×11事業者(各1時間) = 110,000円  
③内容(実績)  
○セミナー開催  
・第1回 11月25日 「知らないと損をする『伝わるデザイン』レシピ」(参加事業者 7名)  
講師 suki-ma project 高橋 直美  
・第2回 1月20日 「今日からはじめよう！ファンを増やすスマホ動画撮影」(参加事業者 3名)  
講師 フリーアナウンサー 村井 由紀子  
○個別相談会 計3回(12月16日、2月3日、2月17日) 参加事業者 各4名

令和4年度

事業説明資料

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名
01	06	01	03	164090	6次産業化推進事業費

事業手法の詳細 2					
2. 農商工連携推進 1,031千円					
<p>①農商工連携事業補助金 1,031,000円            花巻産の農畜産物を活用し、加工品開発、加工施設整備に要する経費を助成する。</p> <p>ア. 加工品開発 補助率：2分の1、補助額上限200万円            (継続して事業実施する場合は、一年度内1回とし、連続する3年度内の3回までとする。)</p> <p>イ. 加工施設・機械整備 補助率：3分の1、補助額上限100万円</p> <p>○R4実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・斎藤 靖子 89,000円 自家栽培いちごを活用したコットンキャンディーの製造機械整備</li> <li>・大原 亜優美 339,000円 自家栽培のエディブルフラワー(食用花)を活用した加工食品の開発</li> <li>・(株)ネクス 875,000円 栽培しているゴールデンベリー(食用ほおずき)の収穫残渣を活用したスキンケア商品の開発</li> </ul> <p>②食品商談会同行旅費 0円(実績なし)            農商工連携補助金の活用や市の伴走支援により事業者が開発した6次産業化商品の販路開拓を支援するため、事業者が参加する首都圏での商談会等に同行する。</p> <p>ア. 対象            六次産業化・総合化事業計画認定者、農商工連携事業補助金活用者等の6次産業化実践者</p> <p>イ. 予算内訳            職員旅費 47,000円×1回=47,000円(東京1泊2日)            ※商談会例：フードテックジャパン2022、スーパーマーケット・トレードショー、第17回こだわり食品フェア、第5回地域産品展</p> <p>③農商工連携・6次産業化に関する情報提供 0円(実績なし)            段階に応じた自主的な6次産業化の実践を促すため、6次産業化に関するセミナーや商談会、展示会等の開催情報を提供する。</p> <p>ア. 対象            六次産業化総合化認定計画認定事業者、農商工連携事業補助金活用事業者、認定農業者、市への相談者、集落営農組織、認定新規就農者、食品加工業者等</p> <p>イ. 予算内訳            郵送料 23千円(84円×19通×14回)</p>					

事業手法の詳細 3					

令和4年度

事業説明資料

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名
01	06	01	03	164360	花巻クラフトワイン・シードルブランド化推

単位: 千円

		前年度 決算額	当該年度 決算額	次年度 現計予算額	決算額 前年比
事業費		11,512	8,389		-3,123
財源内訳	国費	0	0		0
	県費	0	0		0
	地方債	0	0		0
	その他	9,000	7,500		-1,500
	一般財源	2,512	889		-1,623

特定財源の内訳					

事業期間	○	単年度繰返	期間限定	～
------	---	-------	------	---

部重点施策における目標

地域づくりへの参加を促進する

事業開始の背景・経緯

・平成28年11月29日に国の構造改革特区「花巻クラフトワイン・シードル特区」の認定を受け、農業者等による果実酒製造への新規参入や果実の高付加価値化、市外からの移住を含めた新たな担い手の確保が期待される。

事業概要

- いわてワインヒルズ推進協議会負担金 50千円  
構成団体負担金
- ワイン・シードル醸造志向者に対する支援 2,253千円  
醸造技術習得支援事業補助金、ワイナリー整備等事業補助金
- 花巻ワイン飲食店活用プロモーションイベント開催 6,086千円  
首都圏でのワインプロモーションイベントの開催

担当部署	13100000 農林部 農政	担当課長	菊池 正彦
------	-----------------	------	-------

意見・要望等の状況

事業手法の詳細 1

花巻クラフトワイン・シードルブランド化推進事業 R4 8,389千円

1. いわてワインヒルズ推進協議会 50千円  
平成29年6月6日、ワインを核とした産業の振興と地域の活性化を図ることを目的として、岩手県や県内ワイナリー、関係市町村等で構成される「いわてワインヒルズ推進協議会」が設立。  
本市からは(株)エーデルワイン、高橋葡萄園、(合)亀ヶ森醸造所、アールペイザンワイナリー、大迫佐藤葡萄園、もんのすけ農園の、計6ワイナリーが参加。  
(1) 構成団体負担金：50千円  
(2) 視察先旅費：0円(実績なし)
2. ワイン・シードル醸造志向者に対する支援 2,253千円
  - (1) 醸造研修受け入れ支援 補助金50千円
    - ① 研修生：堰根 慶 (MKファーム)
    - ② 研修受入先：アールペイザンワイナリー (矢沢)
    - ③ 補助額：5,000円/日 × 10日 = 50,000円
  - (2) 醸造技術・ワイナリー経営セミナーの開催 0千円(実績なし)  
構造改革特別地域計画「花巻クラフトワイン・シードル特区」に掲げている特区活用事業者を確保・育成するため、いわてワイン生産アカデミー修了者やワイナリー設立を目指す移住希望者等を対象とした醸造技術やワイナリーの経営計画に関するセミナー・ワークショップを開催する。  
(テーマ例：ワインの知識、醸造法、機材選択、施設設計、起業計画、マーケティング、醸造用ブドウ栽培技術)

令和4年度

事業説明資料

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名
01	06	01	03	164360	花巻クラフトワイン・シードルブランド化推

事業手法の詳細2					
<p>(3) ワイナリー整備等事業費補助金 2,203千円                      平成28年11月の構造改革特別区域計画「花巻クラフトワイン・シードル特区」の認定を機に、                      果実酒製造の新規参入希望者のワイナリーの整備等に対する支援を行う。                      対象事業者：ワイナリー新規参入者、既存ワイナリー</p> <p>①商品開発・販路開拓 0円（実績なし）                      対象：新規ワイナリー設立予定者                      対象経費：商品開発・販路開拓に要する経費（委託醸造を想定）                      補助率：2分の1、補助額200万円                      条件：一の補助事業者につき1回とする。                      ただし継続して事業実施する場合は、一度年度内1回とし、連続する3年度内の3回までとする。</p> <p>②ワイナリー整備・醸造設備導入 1,678,000円                      ア. 新規ワイナリーの設立に要する経費 0円（実績なし）                      対象：新規ワイナリー                      補助率：5分の4、補助額500万円                      条件：一の補助事業者につき1回とする。                      イ. 既存ワイナリーの醸造設備の新規導入・更新 899,000円                      （亀ヶ森醸造所、アールペイザンワイナリー、大迫佐藤葡萄園）                      対象：既存ワイナリー                      補助率：3分の2、補助額200万円                      条件：一度年度内1回とする。                      ウ. 既存ワイナリーの果実酒直売所、テイスティングルーム等の建屋の新築、増改築 779,000円                      （亀ヶ森醸造所）                      対象：既存ワイナリー                      補助率：2分の1、補助額200万円                      条件：一度年度内1回とする。</p> <p>③販路開拓 525,000円（アールペイザンワイナリー、大迫佐藤葡萄園）                      対象：既存ワイナリー                      対象経費：広告宣伝費、展示会等出展費等                      補助率：2分の1、補助額30万円                      条件：一度年度内1回とする。</p>					

事業手法の詳細3					
<p>3. 花巻ワイン飲食店活用プロモーションイベントの開催 6,086千円                      日本ワインの産地として、山梨県、長野県、北海道、山形県の認知度は高いが、山形県に次ぐワイナリー数を有する岩手県の認知度は低い。                      大迫地域のワインは50年以上の歴史があり、国内外のワインコンクールでも高評価を受けているものの、近年の日本ワインブームにより、全国各地においてワイナリーが新設されていることから、このままでは埋没してしまう可能性がある。                      ワイン消費量の多い首都圏での販路開拓と、日本ワインにおける花巻ワインの認知度向上のため、首都圏でのプロモーションイベントを開催する。</p> <p>(1) 内容（実績）                      ①マッチング営業ツールを活用した商談、各ワイナリーの特集ページ掲載、紹介動画の作成                      ②東京、大阪、福岡の飲食店（計20店舗）で、「花巻ワイン・シードルフェア」を開催                      ③大規模展示会へ出展し、対面での商談を実施</p> <p>(2) 経費等                      ①花巻ワインプロモーションイベント開催業務委託 5,989,500円                      ②イベント職員旅費 96,120円                      「花巻ワイン・シードルフェア」及び「J Fフードバイヤーズ商談会」の視察</p> <p>(3) 参加事業者（計6ワイナリー）                      (株)エーデルワイン、高橋葡萄園、亀ヶ森醸造所、アールペイザンワイナリー、大迫佐藤葡萄園                      もんのすけ農園</p>					